

みぶ町政だより

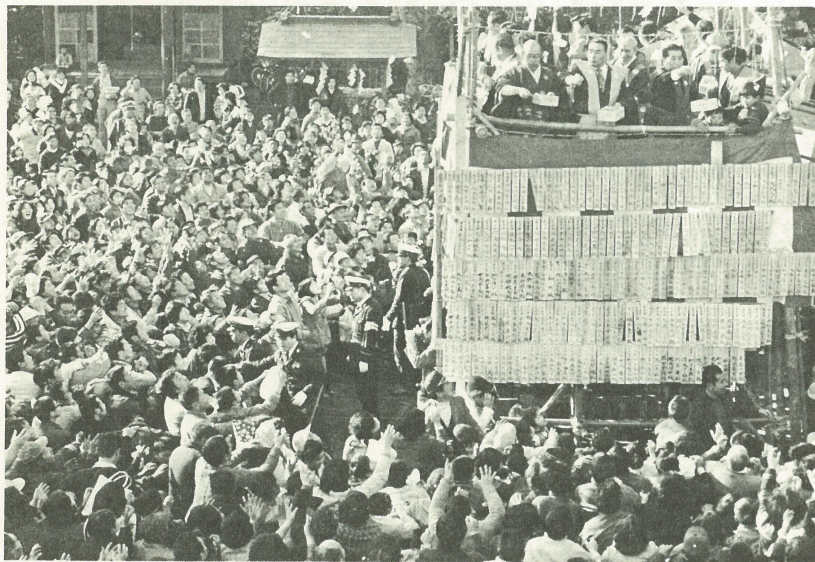


2月号

昭和49年2月24日発行

発行所 栃木県壬生町役場（毎月24日発行）

昭和34年9月30日第三種郵便物認可一部9円



福は——うち！
鬼は——とと！

恒例の節分祭は、2月3日壬生寺の境内で盛大に行われました。

毎年この節分には、慈覚大師の誕生の地である壬生寺で行われ東京はじめ、各地から団体で参観人がおしかけ、約4,000人の人波でにぎわいました。

この日は、日曜日とあって、子どもたちは、おおよこび、帰りには大きなダルマさんをかかえていく姿がいじらしい風景でした。

今月の人口

総人口	28,983
男	14,475
女	14,508
世帯数	6,852

消費は美徳 物は大切にしましょう！

冬将軍と戦う豆剣士

少年剣道教室の寒稽古

今年の冬は、例年になく寒波に
見舞われ、特に入寒以降は一段と
寒気を増しています。
この寒さのめげず元気に少年剣
士たちは「えい、やあ」の掛け
声も勇ましく、一月十九日の納会
までの十日間連日寒稽古に打ち込
み、多大の成果を収めました。
この寒稽古は、本年で第二回を
迎え、恒例の行事として壬午少
年剣道教室の企画で行われている
もので、剣を通じ心身の鍛錬に励
ました真剣なものでした。



壬午中体育館で寒稽古
この日は、剣道教室創設者の師
範三義市さんが総指揮をとり、
静座から始まり、レッスンを行
いました。
続いて壬午町体育協会の師範
安納勲三郎氏、水井重正氏、森田
与次右エ門氏、川又儀一氏、そ
れにおもろ岡地の第一化成材木
工場長以下剣道部の有士たちの稽
古が行われました。
また、級別勝ち抜き試合など行
い、最後に大中小学校長などの来
賓の祝辞、講話があり当日行事
が終了しましたが、その後、小野塚
後援会長や父兄、そしてエポ
ン姿のお母さんたちによるお手製
の温かいお汁で暖炉会が盛ん
に催され、意義ある寒稽古納会と
なりました。



三校で立志式

町教育委員会では、二月四日に
三中学校で、立志式が行われまし
た。
南大綱中が午前九時三十分から
稲葉中が午前十一時から、壬午中
が午後一時からはそれぞれ行われ
ました。
この立志式は、満十四歳を迎え
た少年少女（中一・年生）たちの
昔でいう「元服」と似た儀式で、
立志式は、文字志を立てる。
すなわち「真心を離れ、おとなの
仲間入りをする自覚と責任を持つ
こと」という意味を催されたもの
です。
今日の該当する人は、南大綱中
一三名、稲葉中一〇六名、壬午
中一四九名、合計八八名で父兄
同伴で招待、式場には町長はじめ

国谷チームが優勝

青年団駅伝大会



壬午町青年団協議会主催で行
われた第四回駅伝大会は、一月三
日午前九時、壬午小学校にて昨年の
優勝の国谷チームをはじめ各青年
団や一般参加の日産チームなど十
九チーム、一三選手が参加して
午前十時壬午小学校庭をスタートし
ました。
壬午は、壬午小を出発して国
谷・安塚・上田・中泉・羽生田・
稲葉・壬午小の七区間、二六・
四キロメートルのコースで健闘を
競い、その結果一般では、一位は
ました。

自治会で

功労者を表彰

至道自治会（会長神崎幸二）
では、このほど至道神社の創立一
十周年を記念して、その式典が盛
大に行われました。
その時、至道自治会の振興費
けたことを行う災害復旧事業に関
する仕事を行います。

経済課

経済課は、その名のとおり町
民所得の向上をはかるため産業
経済に関する仕事を行っています。
それだけでなく、農業業者や
商業業者に接する機会が
非常に多い課で、係とし
ては農産物改良係、商工
係の二つがあります。

各課紹介

農務係は、農業振興に
関する計画立案および農
畜産物の生産奨励等に関
する仕事をしています。
主なもの、施設園芸
等の特産地形成や適地開発の推
進、農作物・家畜の防疫指導
農務科主婦人の育成、生活改

児童扶養手当

特別児童扶養手当

児童扶養手当は、日本国民で
義務教育終了前の児童（里親は
除く）を養育する母子世帯で、
受給者本人の年間所得が、扶養
一人として一、三四四・七〇円
以下であること、またその年金
の受給者でないこと、障害福祉
給付金、老齢福祉年金受給者は
除く）が養育費であるので、該
当する方は申請書の提出が必要
です。
申請書には該当児童の戸籍の
謄本および世帯全員住民票の写
しが必要で、
特別児童扶養手当は、身体が
不自由な七歳未満の児童を養
育する父兄で日本国民である父
または母に支給されます。
所得要件については、児童扶
養手当と同様です。
町議会議員が出席し式が行われ
ました。
今年は、町長から「自覚」と書
かれた色紙が贈られました。
被保険者の負担増
たとえば、日曜日に、ある診療
所で再診料五〇円と時間外加算
までは再診料五〇円と時間外加算
三〇〇円の計八〇円であるが、再診
料一五〇円と新設の休日加算一〇



感謝状を手記に宛てて

展のために本年にわたって尽力さ
れた方々を何らかの方でお礼を
しようということで、この日次の
方に感謝状と記念品を贈って日頃
の労をねぎらいました。
授賞者は、次の方々です。
青木直雄（七十歳）、高山重
男（四十歳）、大沢正太郎（六
十四歳）、植木長造（四十七歳）
梅山庄市（六十六歳）、青木八
十（六十八歳）、大栗アツノ（五
十四歳）

法律相談を開始

このたびは町民連合会の事業と
して、母子家庭や寡婦の存在を対
象に、事業経費や生活上の問題の
解決を図るため、専門家による特
別相談を実施しております。
この特別相談は、例えど慰謝料、
や遺贈相続に際する家庭紛争、家
土地にかかわる紛争、あるいは交通
事故の補償、金銭貸借などの法律
問題で解決が困難なことから
上について専門家が直接指導を
いたします。
また、事業経費や生活上の問題や税務
上の問題を改善し、事業の発展さ
せていくための相談指導も併せて
行います。
特に、母子福祉金を借ろうけ
て事業を営んでいる方や、これら
の問題で困りの方はぜひこの機
会に特別相談をうけられるようお
進めします。
三月に行われる日程は
一日法律相談 栃木市役所
二日法律相談 足利市役所
三日法律相談 宇都宮市役所
四日法律相談 宇都宮市役所
五日法律相談 宇都宮市役所
六日法律相談 宇都宮市役所
七日法律相談 宇都宮市役所
八日法律相談 宇都宮市役所
九日法律相談 宇都宮市役所
十日法律相談 宇都宮市役所
十一日法律相談 宇都宮市役所
十二日法律相談 宇都宮市役所
十三日法律相談 宇都宮市役所
十四日法律相談 宇都宮市役所
十五日法律相談 宇都宮市役所
十六日法律相談 宇都宮市役所
十七日法律相談 宇都宮市役所
十八日法律相談 宇都宮市役所
十九日法律相談 宇都宮市役所
二十日法律相談 宇都宮市役所
二十一日法律相談 宇都宮市役所
二十二日法律相談 宇都宮市役所
二十三日法律相談 宇都宮市役所
二十四日法律相談 宇都宮市役所
二十五日法律相談 宇都宮市役所
二十六日法律相談 宇都宮市役所
二十七日法律相談 宇都宮市役所
二十八日法律相談 宇都宮市役所
二十九日法律相談 宇都宮市役所
三十日法律相談 宇都宮市役所

お知らせ



課税台帳の縦覧は

四月十一日から

固定資産課税台帳の縦覧は、毎年三月一日から二日間行われておりますが、四十九年度分の固定資産税について、現在、国において、小規模住宅用地など、税の軽減措置が検討されており、今年度中に法改正が見込まれている関係から四十九年度に限り課税台帳の縦覧期間が四月十一日から四月二十日までに変更になります。したがって、第一期分の納税も一カ月以下下げられ五割となります。(二期・四期分は変更ありません。)

移動図書館

一だれにでも利用できます

3月5日 南大飼支所 15時00分
4月9日 中央公民館 13時30分
" 稲葉公民館 14時30分

いずれも停車時間は40分です。

スキーの集い

町体育協会スキー部では、次によりスキーレクリエーションの集いを開催いたしますので、多数参加ください。
○期日 三月三日(日)
○場所 日光湯元スキー場
○参加料 一般 一五〇〇円
小学生 一三〇〇円
会 員 一三〇〇円
参加希望者は、参加料を添えて教育委員会体育事務局まで申し込んでください。

免許更新新講習

三月の日程は、次のとおりです
○四日(月)二十一日(金)
○場所 いずれも中央公民館
○時間 午前十時から

廃犬引き取り日

廃犬は、はなさないで廃犬引き取り日にしてください。
○日 程 三月二日(水)
" 一十七日(水)

場所および時間

役場本庁 九時三十分まで
南大飼支所 九時四十分まで
稲葉支所 十時まで

豚コレラの注射

豚コレラの注射は、毎月十五日に行います。(日曜 祭日の場合は翌日)
十日前までに経済課へ申し込んでください。

善意銀行

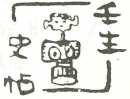
稲葉中学校の生徒会員が「恵まれない人にあけてください。」と金七、四二〇円が寄託されました。

休診のお知らせ

三月の日曜 祝日は、次の医師以外は全部休診になります。

日	町名	医 院 名
三日	安塚	島田医院
十日	上通町	小倉要医院
十七日	仲通町	渡辺医院
二十一日	城內	木村医院
二十四日	松本	内医院
三十一日	栄町	松本医院

◎当番医師の往診はできません

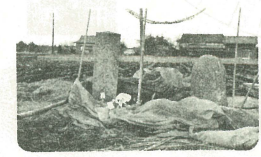


160

信仰心の厚い部落民

太北小林には、三大日を称し、草分百姓だった山井、田村、藤原氏の氏人が大日如来を祀り祭祀を行った跡地が遺されている。大日如来は密教に属する真言の信仰に属したものと考えられる。

千生史帖に北小林に残る渡辺家の系図書に解れて朝比奈三郎の伝説を寓稿した事がある。



北小林にある大日如来の碑

北小林村田村氏の娘を娶った山井氏も朝比奈三郎伝説に密着した家系である事を説明したように驚かしている事と想う。最寄の祭社には、一は北小林森田半蔵氏西南の畠地の中に「田村氏」、一は中村三郎理髮店の屋敷附近に「山井氏」、一は藤原安貞氏宅裏山東端に夫々残っている(藤原氏)。その他北小林の小林神社裏山の風景の凡天を納める位置に今一つの大日如来を刻した石碑がある。

此の四つ目の大日如来は、堰川の流れが突当って数メートルの深

さに水の流む牛ヶ淵から出現したものと伝えられている。牛ヶ淵附近には平安の昔の廃寺跡もあり布目瓦が出土している(山井善、郎氏蔵)と伝えられている。この地点が東に傾斜した地点に牛ヶ淵はあった。牛ヶ淵の若者達が農を掛けて魚漁したが、夜な夜な露の下に川底に怪光を発する物があるので、川水の少なくなつた面に底さらいをしたところが、この大日如来像を刻した二〇程四方位の石が出て来たというのである。北小林の小林神社は、奥の院に薬師如来が祀られ、お祭は神官と僧侶が祝詞を上げ、お祭は神官と僧侶が行う神仏混交の神社である。古くは小林祭を小林持と云つて数里四方から雲霞の参詣者があつたと記録に残る盛大な祭が行われた模様である。鎌倉や戦国の昔には北小林城がこの近辺にあり、北井後守が城主だった古い記録がある。封建時代には、郷にいにしつけ神仏を祭り、その靈験に喜望集の祈りを捧げた。「筆者 大垣」